

女性たちの戊辰戦争

武士の時代は男性優位でしたが、会津藩の武士は男性だけではありませんでした。会津武士の娘の多くは、薙刀（先端に湾曲した刃が付いた金属製の棒からなる剣）を使用する訓練を受けました。会津の女性に関する史料は少ないものの、新島八重や中野竹子など、戊辰戦争の際に登場した著名人もいます。

山本八重子としても知られる新島八重（1845-1932）は、会津藩の砲術教官であった父から射撃術を教わりました。八重は 1868 年秋の会津の戦いで、女性としては非常に異例のことに、銃を使って幕府軍から鶴ヶ城を守るのを助けました。日清戦争（1884-1885）と日露戦争（1904-1905）では看護師としての功績が政府から認められました。彼女はまた、京都に同志社女学校を共同創立し、これは現在の同志社女子大学の前身となりました。

新島の同世代の中野竹子（1847-1868）も会津の戦いに参加しました。薙刀で武装した竹子は、会津藩が女性の軍隊への参加を許可しなかったため、母親と妹を含む女性の独立した軍隊を率いていました。彼女は致命傷を負うまでに多くの敵を倒したと言われています。彼女の部隊は、女子隊と名付けられました。

会津若松市への訪問者は、西郷家の旧居である会津武家屋敷で、会津の女性についてより詳しく学ぶことができます。